

数年前から山田ルイ 53 世が気になっています。

山田ルイ 53 世は、「髭男爵」というお笑いコンビの片方の人です。ワインを掲げながら「ルネッサンス！」と言うギャグをするあの人です。彼らの風貌は印象的ですが内容はそんなに面白くはないと思います。(ごめんなさい)

それなのになぜ気になるのか。気になるのはひぐちくんではなく山田ルイ 53 世の方です。(ひぐちくん申し訳ないです)

それは JAF Mate という JAF の会員機関誌に掲載されていた彼のコラムを読んでからです。その文章にびっくり。上手い。ユーモアがあって読みやすい。些細な日常の一コマをこんなに楽しく、またしんみり考えさせるその文章に感服したのであります。内容は確か、自分が一発芸人だということを娘に内緒にしているという話だったと思います。その文才に驚いて、この人はいったいどういう人なのかとグーグル先生にお尋ねしたところ、紆余曲折の人生を歩んできた人でした。ひょんなことから名門進学中学校を受験して入学するも引きこもりになり中途退学。その後大検を取得して国立大学へ入学を果たすもまたもや中退。そして上京して芸人の道へ。引きこもっている間には、たくさん考え、読み、書いたりしていたのだろうと想像します。

そして次に山田ルイ 53 世の文章に出会ったのは、日本経済新聞の土曜版「NIKKEI プラスワン」の紙面の中の「なやみのとびら」というコラムです。読者からの悩みの相談に 6 人の回答者が順番に答えます。でもその悩みというのが私にとっては「どうしてそんなことで悩むのだろうか？」といった内容がほとんどなのであまり読んでいなかったのですが、ある日ふっと興味惹かれる悩み相談が載っていて、そしてその回答者が山田ルイ 53 世だったのです。その回答は的を射ており、しかも相談者に寄り添ったもので、ユーモアもたっぷり。やっぱりこの人は文才があるのだと確信しました。またなぜかこのコーナーの表題で目を引く悩みの回答者はたいがい山田ルイ 53 世なのです。回答者が相談内容を選ぶのか、新聞社の担当者が適当にあてがうのか。不思議ではありますが。あとで調べてみると、このコーナーは「他人にとっては些細なことでも、自分にとっては大きな悩み」というのがコンセプトとありました。なるほど私が「どうしてそんなことで悩むのだろうか」と思ったのはそういうことだったのです。それを知って深く反省しました。人はいろいろ事情もあって他人にとっては些細と思われれることで悩むものなのですね。猛省。今までは悩みの表題だけ読んでパスしていたものが多々あったけれど、それからは他の回答者の方の相談も読むようにしてみました。この 6 人の方は回答者として選ばれているだけあって当たり前かもしれないけど皆さんとても的確に回答されていて、その回答から思いもよらない大事なことを教えてもらえることがあり、とても感銘を受けました。

オードリー若林の文才にも以前感服し彼のエッセイを読みましたが、またひとりお笑い界から興味深い人物を発掘です。山田ルイ 53 世のエッセイも読みたいと思います。図書館の蔵書検索をしたら、あったあった。ふふふ。ルネッサンス！